

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	コリツクイガクホクジンフクシマケンリクイガク 公立大学法人福島県立医科大学									
フリガナ大学の名称	フクシマケンリクイガククダクイ 福島県立医科大学大学院 (Graduate School, Fukushima Medical University)									
大学本部の位置	福島県福島市光が丘1番地									
大学の目的	本大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を極め、従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与するとともに、医学及び看護学に関する研究を指導する能力を養うことを目的とする。									
新設学部等の目的	課程を通して修得した能力を基盤に「実践開発看護学」の構築および発展に資する独自の看護学研究を自律・自立して行い、看護実践の質の向上に貢献することにより、住民・地域が住み慣れた地域で生を全うすることに寄り添い貢献できる看護教育・研究者の育成と、看護実践の変革を看護学研究の視点から支援・牽引できる看護実践指導者の育成を目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 看護学部看護学科 看護学研究科 看護学専攻修士課程 14条特例の実施	
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻 [Program of Nursing Science] 博士後期課程 [Doctoral Course] 計	年	人	年次人	人	博士(看護学) 【Doctor of Philosophy in Nursing Science】	年月 第 年次	福島県福島市光が丘1番地		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		令和4年度4月名称変更予定 看護学研究科看護学専攻 修士課程 → 博士前期課程								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	看護学研究科看護学専攻 博士後期課程	講義	演習	実験・実習		計				
		6科目	2科目	-		8科目	16単位			
教員	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	看護学研究科看護学専攻博士後期課程		教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	兼任 人
				10 (10)	4 (4)	1 (1)	- (-)	15 (15)	- (-)	2 (2)
計		10 (10)	4 (4)	1 (1)	- (-)	15 (15)	- (-)	-	-	

組 織 の 概 要	既	医学研究科医科学専攻 (M)	33 (33)	12 (12)	12 (12)	21 (21)	78 (78)	- (-)	- (-)	医学専攻教員が医科学専攻を兼務
		医学研究科医学専攻 (D)	80 (80)	46 (46)	67 (67)	47 (47)	240 (240)	5 (5)	- (-)	
	設	医学研究科災害・被ばく医療科学共同専攻医科学コース (M)	14 (14)	6 (6)	2 (2)	4 (4)	26 (26)	- (-)	- (-)	
		医学研究科災害・被ばく医療科学共同専攻看護学コース (M)	14 (14)	6 (6)	2 (2)	4 (4)	26 (26)	- (-)	- (-)	
		看護学研究科看護学専攻 (M)	11 (11)	5 (5)	6 (6)	0 (0)	22 (22)	- (-)	9 (9)	
	分	計	152 (152)	75 (75)	89 (89)	76 (76)	392 (392)	5 (5)	- (-)	
		合計	162 (162)	79 (79)	90 (90)	76 (76)	407 (407)	5 (5)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		233 (233)		283 (283)		516 (516)			
	技 術 職 員		60 (60)		94 (94)		154 (154)			
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)		2 (2)		8 (8)			
	そ の 他 の 職 員		16 (16)		44 (44)		60 (60)			
	計		315 (315)		423 (423)		738 (738)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	124,746.01㎡	-		-		124,746.01㎡			
	運 動 場 用 地	46,197㎡	-		-		46,197㎡			
	小 計	170,943.01㎡	-		-		170,943.01㎡			
	そ の 他	287,741㎡	-		-		287,741㎡			
	合 計	458,684.01㎡	-		-		458,684.01㎡			
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			
		142,617.83㎡ (142,617.83㎡)	-		-		142,617.83㎡ (142,617.83㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設			
	36室	23室	49室		4室 (補助職員 0人)		2室 (補助職員 0人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数					
		看護学研究科看護学専攻博士後期課程			13 室					

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特定 不能なため、大学全 体の数
		冊	種	種	種					
	看護学研究科看護学 専攻博士後期課程	230,129 [95,262] (229,574 [95,160])	14,519 [8,564] (14,498 [8,564])	6,901 [5,464] (6,880 [5,464])	3,807 (3807)	0 (0)	0 (0)			
	計	230,129 [95,262] (229,574 [95,160])	14,519 [8,564] (14,498 [8,564])	6,901 [5,464] (6,880 [5,464])	3,807 (3807)	0 (0)	0 (0)			
図書館		面積 4,865.09㎡		閲覧座席数 403		収納可能冊数 350,000		大学全体		
体育館		面積 4,430㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要 野球場(1面)、庭球場(5面)、洋弓場、和弓場						
経費の 見積り 及び 維持 方法 の概 要	経費の 見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での算出 不能なため、学部と の合計
		教員1人当り研究費等		620千円	620千円	620千円	-	-	-	
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	-	-	-	
		図書購入費	14,530千円	14,530千円	14,530千円	14,530千円	-	-	-	
	設備購入費	500千円	500千円	500千円	500千円	-	-	-	図書費には電子 ジャーナル・デー タベース整備費(運 営コストを含む)	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		818千円	536千円	536千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			運営費交付金、雑収入等							
既設 大学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	福島県立医科大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	医学部 医学科	6	130	-	780	学士(医学)	1.00	昭和27 年度	福島県福島市光が 丘1番地	令和3年度開設
	看護学部 看護学科	4	84	-	336	学士(看護学)	1.00	平成10 年度		
	保健科学部 理学療法学科	4	40	-	40	学士(理学療 法学)	-	令和3 年度	福島県福島市栄町 9番地1	
	作業療法学科	4	40	-	40	学士(作業療 法学)	-			
	診療放射線科学科	4	25	-	25	学士(診療放 射線科学)	-			
	臨検検査学科	4	40	-	40	学士(臨床検 査学)	-			
	大学院 医学研究科医科学専攻 (M)	2	10	-	20	修士(医科学)	0.55	平成20 年度	福島県福島市光が 丘1番地	開設年度の下段、()内は再編年度
	大学院 医学研究科医学専攻(D)	4	37	-	148	博士(医学)	1.22	昭和36 年度 (平成21 年度)		
大学院 医学研究科 災害・被ばく医療科学 共同専攻医科学コース (M)	2	5	-	10	修士(医科学)	0.60	平成28 年度			
大学院 医学研究科 災害・被ばく医療科学 共同専攻保健看護学 コース(M)	2	5	-	10	修士(看護学)	0.70	平成28 年度			
大学院 看護学研究科看護学専 攻(M)	2	10	-	20	修士(看護学)	0.75	平成14 年度			

附属施設の概要	<p>名称：福島県立医科大学附属病院 目的：学位分野の研究・実習 所在地：福島県福島市光が丘1番地 設置年月：昭和62年6月（移転整備、現きぼう棟） 平成28年10月「みらい棟」新築 規模等：【きぼう棟】 土地16,648㎡（建築面積）、建物69,159㎡、11階建 【みらい棟】 土地5,759㎡（建築面積）、建物23,950㎡、8階建 きぼう棟・みらい棟 計39科、778床</p>	
	<p>名称：福島県立医科大学附属医療研修センター 目的：学位分野の研究 所在地：福島県光が丘1番地 設置年月：昭和63年3月 規模等：土地3,047㎡、建物2,639㎡、4階建</p>	
	<p>名称：福島県立医科大学医学部附属生体情報伝達研究所 ・放射性同位元素研究施設・実験動物研究施設 目的：学位分野の研究 所在地：福島県福島市光が丘1番地 設置年月：平成6年4月（再編整備） 規模等：土地4,839㎡（建築面積）、建物7,668㎡、5階建</p>	
	<p>名称：福島県立医科大学会津医療センター 目的：地域医療の診療、研究、教育 所在地：福島県会津若松市河東町谷沢字前田21番地2 設置年月：平成25年5月 規模等：土地50,927.92㎡、建物23,528.93㎡、6階建</p>	
	<p>名称：福島県立医科大学医学部附属実験動物研究施設 目的：学位分野の研究 所在地：福島県光が丘1番地 設置年月：令和2年7月 規模等：建築面積434㎡、延べ床面積1,721㎡、4階建</p>	

公立大学法人福島県立医科大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程
設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
公立大学法人 福島県立医科大学				公立大学法人 福島県立医科大学				
医学部				医学部				
医学科（6年制）	130	—	780	医学科（6年制）	130	—	780	
看護学部				看護学部				
看護学科	84	—	336	看護学科	84	—	336	
保健科学部				保健科学部				
理学療法学科	40	—	160	理学療法学科	40	—	160	
作業療法学科	40	—	160	作業療法学科	40	—	160	
診療放射線科学科	25	—	100	診療放射線科学科	25	—	100	
臨床検査学科	40	—	160	臨床検査学科	40	—	160	
計	359	—	1696	計	359	—	1696	
公立大学法人 福島県立医科大学大学院				公立大学法人 福島県立医科大学大学院				
医学研究科				医学研究科				
医科学専攻（M）	10	—	20	医科学専攻（M）	10	—	20	
医学専攻（4年制D）	37	—	148	医学専攻（4年制D）	37	—	148	
災害・被ばく医療科学 共同専攻医科学コース （修士課程）	5	—	10	災害・被ばく医療科学 共同専攻医科学コース （修士課程）	5	—	10	
災害・被ばく医療科学 共同専攻看護学コース （修士課程）	5	—	10	災害・被ばく医療科学 共同専攻看護学コース （修士課程）	5	—	10	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻（M）	10	—	20	看護学専攻（M）	10	—	20	
				看護学専攻（D）	2	—	6	課程変更（認可申請）
計	67	—	208	計	69	—	214	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	ケア開発看護学特講	1前	2			○			5	1					兼1 オムニバス オムニバス オムニバス・ 共同（一部） オムニバス
	ケアシステム開発看護学特講	1前	2			○			4	1	1				
	実践開発看護学演習	1通	2				○		8	3	1				
	看護研究特講	1前	2			○			1						
	小計（4科目）	—	8	0	0	—	—	—	9	3	1	0	0	兼1	
選択科目	看護人材育成論特講	1後		2		○			2	1				兼1	オムニバス
	看護心理学特講	1後		2		○			3						オムニバス
	看護病態学特講	1後		2		○			1	1					オムニバス
	小計（3科目）	—	0	6	0	—	—	—	6	2	0	0	0	兼1	—
特別研究科目	実践開発看護学特別研究	1～3通	6				○		10	3	1				
	小計（1科目）	—	6	0	0	—	—	—	10	3	1	0	0	0	—
合計（8科目）			—	14	6	0	—	—	10	4	1	0	0	兼2	—
学位又は称号		博士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
3年以上在籍し、修了要件の単位16単位（専門科目8単位、選択科目2単位以上、特別研究科目6単位）以上を修得し、かつ、学位論文を提出しその審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要

（看護学研究科看護学専攻博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通必修科目	看護理論	1前	2			○				1					兼1
	看護研究	1前	2			○			2						兼1
	看護倫理	1前	2			○			1						兼1
	看護研究方法論	1・2後	2			○			2						オムニバス
	小計（4科目）	—	8	0	0				3	1	0	0	0		兼2
看護専門科目	がん看護論	1前		2		○			1						
	がん看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	がん看護学特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	がん看護学演習Ⅰ	1後		2			○		1		2				
	がん看護学演習Ⅱ	1後		2			○		1		1				
	がん看護学実習Ⅰ	1後		2				○	1		1				
	がん看護学実習Ⅱ	1後		4				○	1		1				
	がん看護学実習Ⅲ	2前		4				○	1		1				
	がん看護学実習Ⅳ	1後		2				○	1						
	緩和ケア論	1・2前		2		○			1		1				
	症状マネジメント	1・2後		2		○			1		1				
	がん医療におけるコミュニケーション看護ケア方法論	1・2後		2		○			1	1	1				
成人看護学領域	成人看護論	1前		2		○				1					
	成人看護学特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	成人看護学特論Ⅱ	1後		2		○				1					
	成人看護学演習Ⅰ	1通		2			○			1					
	成人看護学演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	成人看護学実習Ⅰ	1後		2				○		1					
	成人看護学実習Ⅱ	1・2後		2				○		1					
家族看護学領域	家族看護論	1前		2											
	家族看護学特論Ⅰ	1前		2											
	家族看護学特論Ⅱ	1後		2											
	家族看護学演習Ⅰ	1前		2											
	家族看護学演習Ⅱ	1後		2											
	家族看護学実習Ⅰ	1前		2											
	家族看護学実習Ⅱ	1後		2											
老年看護学領域	老年看護論	1前		2		○			1						
	老年看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	老年看護学特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	老年看護学演習Ⅰ	1通		2			○		1						
	老年看護学演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	老年看護学実習Ⅰ	1後		2				○	1						
	老年看護学実習Ⅱ	1・2後		2				○	1						
	認知症看護論	1・2後		2		○			1						兼2
精神看護学領域	精神看護論	1前		2		○				1					
	精神看護学特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	精神看護学特論Ⅱ	1後		2		○				1					兼1
	精神看護学演習Ⅰ	1前		2			○			1	1				
	精神看護学演習Ⅱ	1通		2			○		1	1	1				
	精神看護学演習Ⅲ	1後		2			○			1	1				
	精神看護学実習Ⅰ	1・2通		2				○		1	1				
	精神看護学実習Ⅱ	1後		4				○		1	1				
	精神看護学実習Ⅲ	2前		2				○		1	1				

	精神看護学実習Ⅳ	2前		4			○			1	1					
	急性期精神看護論	1・2前		2		○				1						兼1
	リエゾン精神看護論	1・2前		2		○				1	1					
	精神訪問看護論	1・2前		2		○				1						兼1
	地域精神保健論	1・2前		2		○				1						
母性看護学領域	女性看護論	1前		2		○				1						
	母性看護学特論Ⅰ	1前		2		○				1						
	母性看護学特論Ⅱ	1後		2		○				1						
	母性看護学演習	1前		2			○			1						
	母性看護学実習Ⅰ	1前		2				○		1						
	母性看護学実習Ⅱ	1後		2				○		1						
小児看護学領域	母子保健論	1前		2		○				2	1					
	小児看護論	1前		2		○				2	1					兼1
	小児看護学特論Ⅰ	1後		2		○				1	1					
	小児看護学特論Ⅱ	2前		2		○				1	1					
	小児看護学演習Ⅰ	1前		2			○			1	1					
	小児看護学演習Ⅱ	1後		2			○			1	1					
	小児看護学演習Ⅲ	1後		2			○				1					兼1
	小児看護学実習Ⅰ	1前		2				○		1						
	小児看護学実習Ⅱ	2前		2				○		1						
	小児看護学実習Ⅲ	1後		2				○		1	1					
	小児看護学実習Ⅳ	1前		4				○		1	1					
小児看護学実習Ⅴ	2通		4				○		1	1						
地域看護学領域	地域保健看護論	1前		2		○				1						
	地域保健看護学特論Ⅰ	1後		2		○				1						
	地域保健看護学特論Ⅱ	1前		2		○				1						
	地域保健看護学演習	1・2後		2			○			1						
	地域保健看護学実習Ⅰ	1・2前		2				○		1						
	地域保健看護学実習Ⅱ	1後		2				○		1						
	地域保健看護学実習Ⅲ	1後		2				○		1						
	在宅看護論	1前		2		○				1						
	在宅看護学特論Ⅰ	1前		2		○				1						
	在宅看護学特論Ⅱ	1後		2		○				1						
	在宅看護学演習	1前		2			○			1						
	在宅看護学実習Ⅰ	1後		2				○		1						
	在宅看護学実習Ⅱ	2前		2				○		1						
小計 (80科目)	—	0	172	0			—		9	5	5	0	0			兼5
共通選択専門科目	フィジカルアセスメント	1前		2		○				1	1					
	病態生理学	1後		2		○				2						
	臨床薬理学	1前		2		○				1	2					
	健康情報学	1・2通		2		○				1						
	看護教育論	1・2前		2		○										
	コンサルテーションの理論と実際	1・2前		2		○						1				兼1
	リハビリテーション看護論	1後		2		○				1						兼1
	看護マネジメント論	1・2前		2		○					1					
	ストレスと心身症	1・2前		2		○				1						
	看護と法	1・2後		2		○										
	看護政策論	1・2後		2		○										
	家族面接論	1・2後		2		○				1						
	現代家族論	1・2後		2		○	○				1					
	小計 (13科目)	—	0	26	0			—		5	5	1	0	0		
研究指導科目	看護特別研究	2通	0	6						8						
	小計 (1科目)	—	0	6	0					8	0	0	0	0		
	看護課題研究	2通	0	4						3						
	小計 (1科目)	—	0	4	0					3	0	0	0	0		
合計 (99科目)	—	8	182	0			—		10	5	6					兼9

学位又は称号	修士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）	
卒業要件及び履修方法		授業期間等		
○研究コース 共通必修科目 8 単位、看護特別研究 6 単位、専攻する領域の特論、演習、実習及び共通選択専門科目から 1 6 単位以上の計 3 0 単位以上を履修しなければならない。		1 学年の学期区分	2 期	
		1 学期の授業期間	15 週	
		1 時限の授業時間	90 分	
○CNS（専門看護師）コース 共通必修科目 8 単位、看護課題研究 4 単位、専攻する領域の特論、演習、実習及び共通選択専門科目からがん看護学領域にあつては 3 6 単位以上の計 4 8 単位以上、精神看護学領域にあつては 3 2 単位以上の計 4 4 単位以上、小児看護学領域にあつては 3 4 単位以上の計 4 6 単位以上を履修しなければならない。				

教育課程等の概要																
(看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
表現力を培う	英語Ⅰ	1通	2				○			1					兼1	
	英語Ⅱ	2通	2				○									兼1
	英語Ⅲ	3前		1			○									兼1
	英語Ⅳ	3前		1			○									兼1
	フランス語	1通		2			○									兼1
	ドイツ語	1通		2			○									兼1
	スペイン語	1通		2			○									兼1
	中国語	1通		2			○									兼1
小計（8科目）		—	4	10	0		—			1	0	0	0	0	兼7	
人間の理解を深める	心理学	1前	1			○									兼1	
	生活と科学	1前	1			○									兼1	
	死生観の歴史	1前		1		○									兼1	
	人間関係論	1後		1		○									兼1	
	女性学	1前		1		○									兼1	
小計（5科目）		—	2	3	0		—			0	0	0	0	0	兼5	
倫理的な高さを高める	倫理学	1前	1			○									兼1	
	生命倫理	1後	1			○				1					兼1	
	小計（2科目）		—	2	0	0		—		1	0	0	0	0	兼2	
論理的な思考を培う	統計学	1後	2			○									兼1	
	自然科学	1通	3			○									兼5	
	数学	1前		2		○									兼1	
	小計（3科目）		—	5	2	0		—		0	0	0	0	0	兼7	
感性を高める	文学	1前		1		○									兼1	
	美術	1後		1		○									兼1	
	音楽	1通		1		○									兼1	
	体育Ⅰ	1後		1		○	○								兼1	
	体育Ⅱ	1前		1		○									兼1	
小計（5科目）		—	0	5	0		—		0	0	0	0	0	兼5		
社会の理解を求める	医療と法	4前	1			○									兼1	
	医療と経済	4後	1			○									兼1	
	社会と医療・福祉・保健	1後	2			○									兼1	
	行政と医療・福祉・保健	1前	1			○									兼1	
	現代社会論	4前	2			○									兼1	
	社会と法（日本国憲法を含む）	1前		2		○									兼1	
小計（6科目）		—	7	2	0		—		0	0	0	0	0	兼6		
人間の身体機能と病態を理解する	人体解剖生理学Ⅰ	1前	3			○	※			1					演習	
	人体解剖生理学Ⅱ	1後	2			○	※			1					演習	
	生体防御学	2前	1			○				1					兼1	
	生化学	1前	1			○					1					
	病態栄養学	2前	1			○	○								兼1	
	薬物治療学	2通	2			○				1						
	微生物学	2前	1			○									兼1	
	病理学	2前	2			○				1						
	病態診断治療学	2後	3			○	※			1					演習	
小計（9科目）		—	16	0	0		—		1	1	0	0	0	兼3		

看護の基本となる科目	看護学の基本Ⅰ	1前	2			○				1					
	看護学の基本Ⅱ	1後	2				○			1					
	コミュニケーションに関する技術	1前	1				○				1				
	看護技術とアセスメントⅠ	1通	3			※	○				2	2		演習	
	看護技術とアセスメントⅡ	2前	3			※	○				2	2		演習	
	看護技術とアセスメントⅢ	2後	3			※	○				2	2		演習	
	看護倫理学	2前	1			○				1					
	災害看護学Ⅰ	1後	1			○					1				
	保健情報演習	2後	2			○	※								兼1
	疫学	2前	2			○									兼1
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					○			2	3	2		
	基礎看護学実習Ⅱ	2通	2					○			2	3	2		
小計（12科目）	—	23	0	0	—	—	—	—	0	2	3	2	0	兼2	
看護実践を支える科目	母性看護学	2前	4			○	※			1		1	4		演習
	地域看護学Ⅰ	2前	1			○				1					
	地域看護学Ⅱ	2前	1			○					1	1			
	成人看護学Ⅰ	2前	1			○				1	1	1			
	成人看護学Ⅱ	2通	2			○				1	1	2	1		
	成人看護学Ⅲ	3前	2			○					1	1			
	成人看護学Ⅳ	3前	1				○			1	1	2	1		
	救急・クリティカルケア	3前	1				○				1	2	1		
	エンド・オブ・ライフケア	3前	1			○				3	1	2	1		オムニバス
	小児看護学Ⅰ	2後	1			○				1		1	1		
	小児看護学Ⅱ	3前	3			○	※			1		1	1		演習
	老年看護学Ⅰ	2後	1			○				1		2	1		
	老年看護学Ⅱ	3前	3			○	※			1		2	1		演習
	精神看護学Ⅰ	2前	2			○	※				1	1	2		演習
	精神看護学Ⅱ	3前	2			○	※				1	1	2		演習
	在宅看護論	3前	2			○				1					
	地域包括ケア論	3後	1			○				1	2	1	1		オムニバス
	家族看護論	3前	1			○				3	2	1	1		オムニバス
	感染看護学	3前	1			○					1				
	医療安全学	3前	1			○					1				
公衆衛生看護学Ⅰ	2後		3		○						1	1			
公衆衛生看護学Ⅱ	3前		3		○						1				
公衆衛生看護学Ⅲ	3後		1		○						1				
公衆衛生看護学Ⅳ	3後		1		○				1						
小計（24科目）	—	32	8	0	—	—	—	—	7	4	10	10	0		
看護を統合する科目	チーム医療論	4通	1			○					1				共同
	災害看護学Ⅱ	3前	1				○					1			
	看護研究Ⅰ	3後	1			○				1	1				
	看護研究Ⅱ	4通	3				○			6	4	13	12		
	看護政策論	4通	1			○									兼1
	看護管理学	4通	1			○					1				
	国際看護学	4後	1			○									兼1
小計（7科目）	—	9	0	0	—	—	—	6	4	13	12	0	兼2		

看護 の 実 践	地域看護学実習	2後	1				○	2		2	1			
	急性期看護学実習	3後	2				○		1	2				
	慢性期看護学実習	3後	2				○	1		1	1			
	母性看護学実習	3後	2				○	1		1	4			
	老年看護学実習	3後	2				○	1		2	1			
	小児看護学実習	3後	2				○	1		1	1			
	精神看護学実習	3後	2				○			1	2			
	地域包括ケア実習Ⅰ	4前	1				○		1	3	1			
	地域包括ケア実習Ⅱ	4前	1				○	1	1	3	3			
	地域包括ケア実習Ⅲ	4後	1				○	3		3	2			
	看護管理学実習	4後	1				○		1					
	統合実習	4前	3				○	6	4	13	12			
	公衆衛生看護学実習	4前		4			○	2		2	1			
	小計（13科目）	—	20	4	0	—	—	6	4	13	12	0		
合計（94科目）		—	120	34	0	—	—	9	5	13	12	0	兼39	
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>必修科目120単位、表現力を培う科目の選択科目から2単位、人間の理解を深める科目の選択科目から1単位、感性を高める科目の選択科目から2単位以上を修得し、125単位以上修得すること。</p> <p>保健師国家試験受験資格を取得のためには、「地域包括ケア論」、「家族看護論」、「感染看護学」、「医療安全学」、「公衆衛生看護学Ⅰ」、「公衆衛生看護学Ⅱ」、「公衆衛生看護学Ⅲ」、「公衆衛生看護学Ⅳ」、「公衆衛生看護学実習」を履修し、卒業要件単位と合わせて137単位以上を取得すること。</p>							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			60分				

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ケア開発看護学特講	<p>【概要】 慢性化・複合化する健康障害をもちながら生活する療養者とその家族のケアニーズに応える看護実践の開発と検証方法を考究し、発達段階、健康段階および療養の場に応じたエビデンスのある革新的なケアを探求する。</p> <p>【 オムニバス方式/全15回 】</p> <p>【 7 関亦明子/2回 】 疾患や治療で生じる療養者の身体的問題を掘り起こし、根本的な解決方法について考察する。特に癌治療で生じる口腔問題に焦点を当て、非侵襲的で新規な支持療法や予防的看護ケアを看護理工学的手法を用いて開発する。</p> <p>【 3 坂本祐子/5回 】 高齢者の主体的なその人らしい生活を支えるため、侵襲的医療を受ける高齢者では医原性症候の予防・回復を促進する介入プログラムを、在宅・施設で生活する高齢者とその家族ではAging in Placeを可能にする介入プログラムを開発・検証するための方法論を探求する。</p> <p>【 6 三瓶まり/2回 】 女性の生涯を通じた健康支援やマタニティサイクルに応じた健康支援についてウェルネス志向に基づき、女性とその家族の生活の質の向上を支える看護方法の開発について探求する。</p> <p>【 5 佐藤富美子/2回 】 がん罹患および生命の危機的状況に伴う患者とその家族のケアニーズ(課題)を多角的に分析し、そのケアニーズに応える看護実践の開発と検証方法を探求する。</p> <p>【 11 和田久美子/2回 】 小児看護学の基盤となる理論を探求し、子どもとその家族がその力を発揮できるための看護援助方法や研究について探求する。</p> <p>【 13 菅野久美/2回 】 周手術期・救急クリティカルケアに関連する諸理論・モデルを基盤とし、生命の危機状態に陥った患者とその家族が抱える諸課題に対する革新的なケアの開発、発達課題や生活環境などの特性を踏まえ、健康障害からの回復と生活の再構築を促進する看護実践の開発と検証方法について探求する。</p>	オムニバス方式
	ケアシステム開発看護学特講	<p>【概要】 看護の対象となる人々が、健康問題をもちながら地域で生活していくための包括的かつ継続的なケアシステムのあり方について考究し、さまざまな健康問題、地域特性を活かした看護サービスの提供について探求する。</p> <p>【 オムニバス方式/全15回 】</p> <p>【 2 黒田るみ/2回 】 看護理論開発の歴史を、システム論の発展過程としてとらえ直すことにより、看護現象とケアシステムとの関連性およびその開発に必要な観点を探求する。</p> <p>【 4 佐藤菜保子/2回 】 がん患者及びその家族を対象とした看護実践において、患者・家族団体との連携、多職種連携による情報サポート、心理面のサポートを中心とした連携、ネットワーク構築について探求する。</p>	オムニバス方式

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">専門科目</p>		<p>【 9 高橋香子 / 5回 】 地域の健康課題を解決し、地域住民のQOLの向上に寄与する地域ケアシステムのあり方について探求し、住民・多職種との連携・協働、ネットワークやシステム形成の方法論、その際の看護職（保健師）の看護実践について探求する。</p> <p>【 8 高瀬佳苗 / 2回 】 地域・産業・学校・在宅などあらゆるコミュニティにおける包括的かつ継続的なケアシステムのあり方について探求し、地域特性を踏まえた看護実践について探求する。</p> <p>【 12 大川貴子 / 2回 】 医療破綻し復興途上の被災地で生活する人々のメンタルヘルス、被災後の精神科医療保健福祉のシステム形成を通して、在宅精神障害患者・家族の生活の質向上をめざした看護実践について探求する。</p> <p>【 ⑤ 片桐和子 / 2回 】 外来・短期入院を繰り返しながら継続治療を受けるがん患者への看護実践、がん患者の生活適応のための医師・看護師の包括的支援を探求する。</p>	
	<p>実践開発看護学演習</p>	<p>【概要】 実践開発に関連する文献検討とフィールドワークを通して、看護実践の対象者とその家族や環境、ケアに関わる専門職と関りながら現状を把握する。看護実践の場における課題を抽出し、課題整理のための討議を教員・学生間で行うことにより、課題解決のためのケアやケアシステムの開発に活用できる研究課題を洗練していくことを目的とする。各自が研究課題に応じて介入・評価方法やシステム開発に関する国内外の文献レビューおよびフィールドワークを行う。フィールドワークの成果と文献検討から、課題解決に資する看護実践を構築する研究デザインについて討議し、博士論文の研究計画書作成にむけた演習を行う。</p> <p>【 オムニバス方式・共同（一部） / 全30回 】</p> <p>【 4 佐藤菜保子 / 1回 】 オリエンテーション</p> <p>【 4 佐藤菜保子、2 黒田るみ、3 坂本祐子、5 佐藤富美子、6 三瓶まり、8 高瀬佳苗、9 高橋香子、11 和田久美子、12 大川貴子、13 菅野久美、③ 丸山育子、⑤ 片桐和子 / 21回 】</p> <p>(フィールドワークの計画 / 8回) これまでの看護実践や先行研究に基づくケア開発・ケアシステム開発に資する課題とその背景を明確にし、文献検討や指導教員との討議を通してフィールドワークの目的・方法を計画にする</p> <p>(フィールドワークの実施 / 13回) ・福島県立医科大学附属病院（佐藤・菜、佐藤・富、三瓶、和田） ・福島県立医科大学会津医療センター（坂本） ・ふたば医療センター附属病院（菅野、片桐） ・相馬広域こころのケアセンターなごみ（大川） ・看護小規模多機能型居宅介護事業所在宅看護センター結の学校（黒田、丸山） ・福島県保健福祉事務所（高瀬、高橋） ※必要に応じて学生の実践フィールド等、上記以外の機関でも実施する場合がある。</p> <p>【 4 佐藤菜保子 / 2回 】 (フィールドワークの成果報告) フィールドから得られたデータを基に、新たな看護実践の開発が必要な健康課題とその要因、ケア提供のために必要とされるケアシステムとその背景、新たな看護実践の開発とケア定着を推進するための方策などについて報告する。</p> <p>【 4 佐藤菜保子、2 黒田るみ、3 坂本祐子、5 佐藤富美子、6 三瓶まり、8 高瀬佳苗、9 高橋香子、11 和田久美子 / 6回 】</p> <p>フィールドワークの成果に基づき研究課題を明確化し、課題解決のための研究方法の探求を行い、研究計画書全体を構造化する。</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

	<p>看護研究特講</p> <p>【概要】 看護科学の発展に寄与する研究を推進するための基盤となる看護学研究方法について修得する。特に、抽象的な思考プロセスを通して、看護現象と看護理論を吟味し、科学的な知見を理論へと発展させ、臨床実践に応用できる能力を養う。また、看護研究論文の分析を通じて研究プロセス・研究方法を概観し、各学生が自身の研究課題を焦点化し、研究デザインの設定、研究方法の選定、研究における倫理、データ収集・分析方法の検討等、研究計画書立案から論文作成までの一連の過程において必要な能力を養う。</p> <p>【 オムニバス方式／全15回 】</p> <p>【 5 佐藤富美子／12回 】 看護科学の発展に寄与する研究を推進するための基盤となる看護学研究方法について教授する。看護研究における様々な研究方法論の特徴、研究課題に合わせた適切な研究方法の選択、およびリサーチプログラムを立案する能力を養う。</p> <p>【 14 後藤あや／3回 】 データの分布と分散・検定、分散分析、主成分分析・因子分析、相関と回帰、多変量解析(重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析と主成分分析、パス解析と共分散構造分析、生存分析等)について修得する。</p>	オムニバス方式
	<p>看護人材育成論特講</p> <p>【概要】 看護実践を担う人材の教育に必要な学習理論を学び、看護専門職の生涯学習を支える看護基礎教育ならびに継続教育、およびその環境や社会との関連について学ぶ。特に、授業形態および生活指導の特徴、異なる資格の取得や高度専門職の育成を目指した教育、教育・医療施設の理念を踏まえた教育・研修計画の構築およびその評価など、教授-学習過程を中心に、複数の視点から人材育成を検討できる能力を養う。</p> <p>【 オムニバス方式／全15回 】</p> <p>【 2 黒田るみ／10回 】 看護学教育に関する概念および理論的枠組みについて教授する。さらに、教授-学習過程を踏まえた教育計画案の作成、およびその実践を評価することにより、看護人材育成に関する課題について検討する。</p> <p>【 9 高橋香子／2回 】 複雑で多様化する地域の健康問題解決のために行政機関等において看護実践を展開する保健師の基礎・現任教育の現状を踏まえ、保健師に求められる能力と自治体における人材育成のあり方・方法論について探求する。</p> <p>【 12 大川貴子／2回 】 社会のニーズを把握し、卓越した看護実践を提供して高度実践看護師の在り方について検討し、求められる能力を明確化すると共に、そのような能力を育成していくための教育内容および方法について探求する。</p> <p>【 15 渡邊美恵子／1回 】 臨床現場における看護師の人材育成の現状を踏まえ、高度専門医療を提供する医療機関において質の高い看護実践を行う看護師の人材育成の内容・方法について教授する。</p>	オムニバス方式
選択科目	<p>看護心理学特講</p> <p>【概要】 看護実践に必要な心理的側面をとらえるために、様々な心理学的理論や方法論を踏まえた看護実践について探求する。人間の心理状態、行動を理解するための基本概念をふまえ、それらを用いて、心理学的根拠を考慮した高度な臨床判断、看護実践の開発を行う能力を身につける。</p> <p>【 オムニバス方式／全15回 】</p> <p>【 ② 三澤文紀／7回 】 看護実践と関わる心理学的知見について教授する。特に、患者やその家族の心理的支援と関連が深い臨床心理学を中心としつつ、多様な心理学的知見の理解を深め、看護領域への応用を議論・検討する。</p> <p>【 11 和田久美子／4回 】 看護実践として教育心理学的な側面から患者理解の方法と看護実践について教授する。</p>	オムニバス方式

		<p>【 4 佐藤菜保子／4回 】 患者の社会的背景、人間関係と心理状態の理解および看護実践について、家族心理学的な側面から教授する。</p>	
	看護病態学特講	<p>【概要】 看護実践に必要な病態学の諸理論、国内外の最新の知見について教授する。人間の身体に生起する病変の基本を知り、その成り立ちについて細胞・分子レベルで理解を深め、病態学的根拠を考慮した高度な臨床判断、看護実践の開発を行う能力を身につける。</p> <p>【 オムニバス方式／全15回 】</p> <p>【 ① 太田昌一郎／9回 】 慢性疾患、がん、老年など看護の対象となる人間に生起する病態学的変化について教授する。特に臨床上重要な病理学的変化については、がん看護学、老年看護学等の専門分野を超えた共通の知識として教授する。</p> <p>【 7 関亦明子／6回 】 看護ケアの改良や創成、病因と治療機序の理解に必要な人体の正常と破綻について講義する。分野を超えて役立つ細胞の基本構造と機能の理解が目標である。特にがんの発生機序や幹細胞維持機構、分泌の分子メカニズムを中心として教授する。</p>	オムニバス方式
特別研究科目	実践開発看護学特別研究	<p>【概要】 多様な健康問題を抱える対象者への看護実践の開発と検証研究、ケアシステムの開発などを行うために必要な研究課題、研究計画に関する指導を行う。研究課題の焦点化、研究課題に対する国内外の文献検討、研究デザイン・研究方法の検討、研究計画の立案と研究フィールドの確保、研究計画に基づくデータ収集・分析、論文作成、発表、評価に至るまでの一連の研究過程を通し、研究者として自立して研究できる能力を修得する。</p> <p>研究テーマ (1) がんに対する外来薬物治療における多職種協働に係る研究 (2) 維持透析医療で発生する問題に多職種で対応する方法の研究 (3) 排泄ケアに多職種で対応する方法、問題点を検討する研究</p> <p>【 2 黒田るみ 】 看護実践を通して、看護職者と看護の対象者が相互に影響を及ぼし合いながら、それぞれ変化していく過程の普遍的な構造を追究することにより、あらゆる看護に共通するコアとなる看護実践能力を探究する。</p> <p>研究テーマ (1) 看護師の思考過程および臨床判断に関する研究 (2) 看護理論の検証に関する研究 (3) 看護実践能力の育成に関する研究</p> <p>【 3 坂本祐子 】 高齢者の周手術期におきるせん妄・転倒等の医原性症候群は、生活機能を低下させるだけでなく、在宅復帰を困難にする問題である。入院時から予防ケアを提供するためのアセスメント、介入方法を追求する。</p> <p>研究テーマ (1) 高齢者の周術期における医原性症候群の予防に関する研究 (2) 高齢者の慢性疾患療養管理に関する研究 (3) 高齢者の転倒予防に関する研究 (4) 高齢者の排泄機能障害に関する研究</p> <p>【 4 佐藤菜保子 】 診断期から終末期の各ステージにあるがん患者と家族の体験について理解を深め、がんとの共生を支える包括的支援システム構築や、がん患者・家族のQOLを高める看護実践について探究する。</p> <p>研究テーマ (1) がんを体験している患者と家族の生活の質の評価 (2) がん患者およびその家族の生活の質を向上させるための介入方法や包括的システム構築に関する研究 (3) 小児がん・AYA世代のがんサバイバーに関する研究 (4) 在宅緩和ケアを受けるがん患者と家族に関する研究 (5) 緩和ケア・エンドオブライフケアに関する研究 (6) がん看護学や緩和ケアの教育に関する研究</p>	

【 5 佐藤富美子 】

がん看護学、クリティカルケア看護学領域における看護の現象を多角的に分析し、介入モデルの構築、アセスメントツールの開発および介入研究デザインを用いて患者および家族のQOLの維持・向上をめざす新たな看護実践を開発する。

研究テーマ

- (1) がん患者および家族の治療に伴う侵襲の予防改善に向けたケア開発
- (2) がん患者および家族を対象としたがん罹患後のQOLを促進するケア開発
- (3) がん患者の在宅療養中の生活を支える遠隔看護システムの開発
- (4) クリティカルケア状況下での患者および家族の生活を支えるケア開発

【 6 三瓶まり 】

少子高齢社会における母子の社会的環境を理解し、女性のライフサイクルに応じた健康を支え、子どもの健全な成長と発達を支えるために、自らがもつ研究課題を精練し、解決する方法を学ぶ。

研究テーマ

- (1) 小児の睡眠と自律神経機能に関する研究
- (2) 母親の生活習慣と子どもの健康に関する研究
- (3) 助産師の勤務環境に関する研究

【 7 関亦明子 】

疾病により生じる療養者の身体的困難の解決方法や治療による有害事象を非侵襲的に予防する看護実践を看護理工学的手法を用いて開発する。

研究テーマ

- (1) 口腔トラブルの予防ケアに関する基礎研究
- (2) 分泌メカニズムの解明と唾液腺保護ケアについての研究
- (3) 細胞傷害と幹細胞維持機構や細胞分化についての研究
- (4) 広く治療による有害事象解決についての考察と基礎研究

【 8 高瀬佳苗 】

病気をもつ人から健康な人など多様な健康水準、乳児から高齢者、終末期までの全発達段階、そして保健・福祉・医療などの多面的な生活(療養)の場に応じた対象の健康問題と課題を解決する看護実践を探究し、ケアシステム開発の能力を修得する。

研究テーマ

- (1) 健康障害と健康行動の関連に関する研究
- (2) 療養者と家族に関する研究
- (3) 災害の被災者と支援者(保健師を含む)に関する研究

【 9 高橋香子 】

公衆衛生看護の担い手である保健師の看護実践の質の向上および地域の健康課題解決のための地域ケアシステム構築に関する研究指導を行う。地域の健康問題を多角的に分析し、住民や多職種協働のもと効果的効率的に解決する看護実践の開発、検証、応用できる能力を養う。

研究テーマ

- (1) 地域保健活動における保健師の看護実践の質向上に関する研究
- (2) 住民との協働に基づく地域保健活動、公衆衛生看護活動のに関する研究
- (3) 被災地の住民及び保健師のエンパワメントに関する研究
- (4) 保健師の現任教育およびキャリア開発に関する研究

【 ② 三澤文紀 】

精神科看護における心理的支援のあり方について探求する。特に、面接を中心とした相談方法、精神科訪問看護やアウトリーチにおける有意義な面接方法、様々な家族支援の方法について、心理学的知見を踏まえながら探求を進める。

研究テーマ

- (1) 精神科看護における心理的支援に関する研究
- (2) 精神疾患患者やその家族との相談方法に関する研究
- (3) 日本の精神科領域におけるリフレクティング・プロセスやオープンダイアログの実践に関する研究
- (4) 家族療法やそれに関連する方法論を看護領域に応用する研究

【 11 和田久美子 】

子どもとその家族への看護は、発達段階の特徴に合わせて、子どもとその家族の持てる力を発揮できるように支えていく必要がある。そのためのアセスメントおよび看護実践について探求する。

研究テーマ

- (1) 子どものグリーフワーク・サポートに関する研究
- (2) ハイリスク新生児とその家族に関する研究
- (3) 小児看護学教育に関する研究
- (4) 子どもとのコミュニケーションに関する研究

【 12 大川貴子 】

精神疾患患者や精神障害者およびその家族が、その人らしい生活を営めるよう、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指し、看護実践の在り方を探求する。

研究テーマ

- (1) 精神科訪問看護における支援方法に関する研究
- (2) 精神科アウトリーチに関する研究
- (3) 地域における精神疾患患者の家族支援に関する研究
- (4) 精神疾患患者のセルフケア能力向上を図る看護援助方法に関する研究

【 13 菅野久美 】

疾患や外傷などにより生体侵襲を受けた人やその家族の発達課題・生活過程などの特性を踏まえ、さまざまな健康レベルや病期に応じた看護実践を開発・検証する。

研究テーマ

- (1) 周術期・クリティカルケアの実践に関する研究
- (2) シミュレーション教育プログラム開発に関する研究
- (3) がん薬物療法を受ける患者の心身緊張緩和に関する研究

【 ③ 丸山育子 】

糖尿病患者が地域でその人らしい生活を営み続けるための看護実践のあり方およびそれに関連した患者と医療者との信頼関係構築に関する看護師の育成・支援について探求する。

研究テーマ

- (1) 糖尿病患者のセルフケアを遂行するための看護援助に関する研究
- (2) 糖尿病患者と医療者との関係構築に関する研究
- (3) 糖尿病患者を援助する看護師の育成に関する研究

【 ⑤ 片桐和子 】

がん看護領域において化学療法や手術などの大きな侵襲を受ける対象者を多方面から理解し、その人らしく主体的な生活ができるよう支援するための看護実践について探求する。

研究テーマ

- (1) 大量化学療法を受けるがん患者への継続的支援に関する研究
- (2) 造血器細胞移植を受けるがん患者への包括的支援に関する研究
- (3) 周手術期にあるがん患者の看護リハビリテーションプログラムの開発に関する研究
- (4) がん患者のセルフ・エフィカシーに関する研究